

群 教 セ	G12 - 01
	平25.251集
	小・生

見たことや思ったこと等を絵や言葉などで表す力を高めるための生活科指導の工夫

—— 単元構成の工夫と表現方法の提示を通して ——

特別研修員 山川 安津子

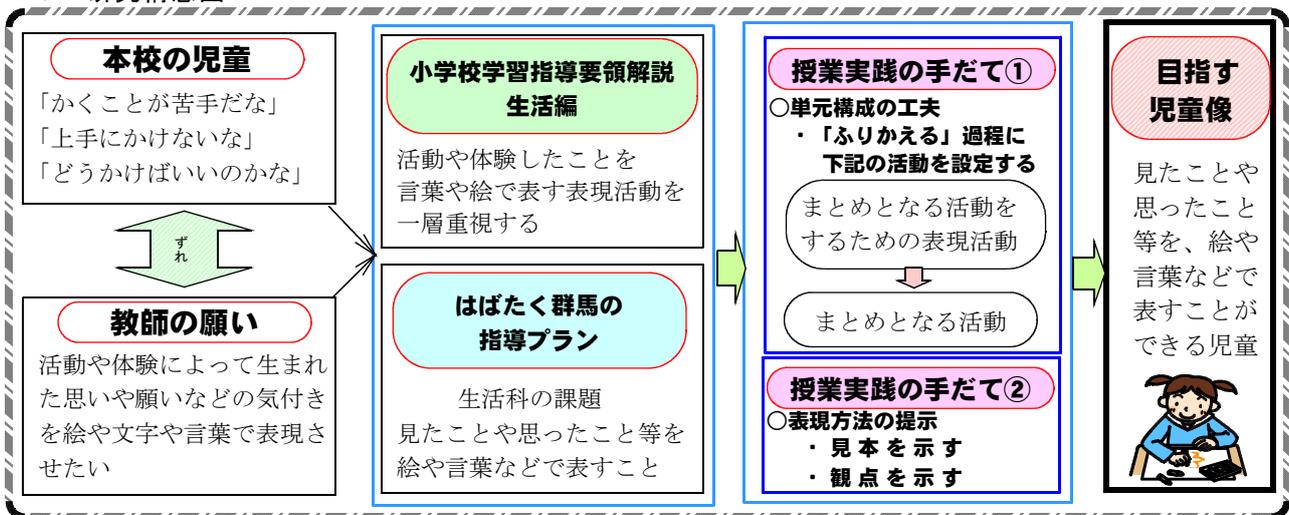
I 主題設定の理由

学習指導要領解説生活科編の(2)改善の具体的事項には、「活動や体験を振り返り、自分なりに整理したり、他の人たちと伝え合ったりする学習活動を充実させ、活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視する」と示されている。また、はばたく群馬の指導プランでは、「見たことや思ったこと等を絵や言葉などで表すこと」が生活科の課題として挙げられている。本校でも、体験や活動は楽しそうに取り組んでいるが、それを記録したりまとめたりする場面では、どうまとめてよいか分からず、苦手意識をもっている児童がいる。

そこで本研究では、表現活動を重視し、まず、主体的に表現できるように単元構成を工夫する。そして表現活動をする際は、いろいろな表現方法を提示し、その中から自分の好きな表現方法で表現できるようにする。このような取組を積み重ねることで、見たことや思ったこと等を絵や言葉で表す力を高めたいと考え、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

実践1 単元「がっこうだいすき」(第1学年・1学期)

—— 実践1における研究上の手だて ——

- 単元構成を工夫する。
 - ・単元のまとめとなる活動として「クイズ大会」を位置付ける。気付いたことを友達に知らせるためにクイズを作るといふ、相手意識や目的意識をもった、次の活動へ発展する必要感のある表現活動を取り入れる。
- 表現方法を提示する。
 - ・絵や粘土、ジェスチャーなど、文字を使わずに表現できるものを中心に提示する。
 - ・「大きさ」「色」「形」など、観点を示す。

本単元は、学校の施設や先生、友達などとかかわることを通して、学校に親しみ、学校生活を送るた

めの習慣や技能を身に付け、これからの学校生活や教科学習などへの意欲をもち、楽しく安心して学校生活ができるようにすることをねらいとしている。まとめとなる活動として「クイズ大会」を位置付け、気付いたことを友達に知らせるためにクイズを作るいう、相手意識や目的意識をもった必要感のある表現活動を取り入れた。また、学校の秘密を一人一人がクイズに表現する際には、1年生の1学期という発達段階を考慮し、ジェスチャーや絵を例示し、言葉で表現できるようにした。その結果、児童は活動に意欲的に取り組み、自分が見付けた人やものを生き生きと表現し、お互いの気付きの幅が広がった。

実践1では絵で表現する児童が多かった。さらに様々な方法で表現できるようにしたいと考え、実践2における手立てを次のように考え、実践に取り組んだ。

実践2 単元「あきのおもちゃだいしゅうごう」(第1学年・2学期)

——実践2における研究上の手だて——

○単元構成を工夫する。

- ・まとめに2年生と一緒に遊ぶ時間を設定し、その前にたくさんのお客さんに来てもらえるように、おもちゃや飾り、お店を宣伝するための表現活動を単元の中に位置付ける。

○表現方法を提示する。

- ・新聞、手紙、ちらし、絵本、紙芝居、テレビコマーシャル、絵などの見本と簡単に表現できる方法を提示する。
- ・おもちゃや飾り・お店の製作活動を振り返り、表現しやすいように「秋の物を使ったところ」「おもちゃや飾りの工夫」「お店の工夫」「思ったこと・考えたこと」の四つの観点を示す。

本単元は、秋の校庭や公園で集めた葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを作り、遊ぶ物を作る面白さや作った物を利用して遊ぶことの面白さ、自然の不思議さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことをねらいとしている。まとめとなる活動に2年生との遊びを設定し、2年生に来てもらえるように、自分で作ったおもちゃや飾り・お店の工夫や頑張りを伝えることを目的とした表現活動を取り入れた。また、様々な表現方法を提示したことにより、児童は興味をもち、表現することへの見通しをもつことができた。さらに、観点を示すことにより、児童は、おもちゃや飾り・お店作りを振り返ることができ、自分なりに整理し、詳しく表現することができた。書き込んだカードを台紙に貼るだけで、自分の好きな方法で簡単に表現できるので、楽しみながら表現活動に取り組むことができた。その結果、児童は、意欲的に表現し、自分自身の活動を振り返り、製作活動を通しての自分自身の頑張りが成長などに気付くことができた。作品が完成した際には、2年生との遊びを楽しむことができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 単元構成を工夫し、まとめとなる活動をする前に、相手意識や目的意識をもった、次の活動へ発展する表現活動を取り入れたことにより、対象となる物や人と深くかかわり、自分なりに考えたことや思ったことを楽しみながら意欲的に表現することができた。
- 見本や観点を示しいろいろな表現方法で表現することは、児童が得意な方法で楽しみながら自分の思いや考えを整理することにつながり、絵や言葉などで表す力を高めるために有効であった。

2 課題

- 表現し伝え合う活動を取り入れたことは児童の気付きの質を高めるのに有効であった。今回は表現する部分に重点を置いたが、伝え合う活動をさらに工夫できるとよいと考える。表現し伝え合う活動を国語や他教科にも取り入れ、継続し指導していく必要がある。

3 提言

- 生活科学習において見たことや思ったこと等を絵や言葉で表す力を高めるために、相手意識や目的意識をもった、次の活動へ発展する表現活動を取り入れることが有効である。このような表現活動を教育課程に位置付け、計画的継続的に指導をしていくことが必要である。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 単元名 「がっこうだいすき」(第1学年・1学期)

2 本単元及び本時について

学校の施設や先生、友達などとかかわることを通して、学校に親しみ、学校生活を送るための習慣や技能を身に付け、これからの学校生活や教科学習などへの意欲をもち、楽しく安心して学校生活ができるようにすることをねらいとする単元である。学校探検をして見付けたことや驚いたこと、気付いたことなどをクイズにして表現し、「クイズ大会」で発表できるように単元構成を工夫した。

本時は15時間計画の10時間目に当たり、学校探検のことを思い出し、自分が一番興味をもった事柄について、クイズにする方法を考えて友達によく伝わるようにまとめることができることをねらいとしている。いろいろな表現方法でまとめることができるように、研究上の手だてを次のように具体化した。

3 授業の実際

導入において、学校探検で何を見付け、それがどこにあるか、またどのような人がいてどのような仕事をしていたかを確認した。

児童は様々なことを見付け「理科室に骸骨があったよ」「保健室に冷蔵庫があったよ」、「A先生は音楽の先生なんだって」「S先生は算数を教えていたよ」「H先生はプールを掃除していたよ」など、嬉しそうに報告をした。

そこで、学校探検で見付けたことを友達に知らせるために、学習課題「学校の秘密をクイズにしよう」を提示した。

色や大きさ・形などの観点や、絵やジェスチャーなどの表現方法を提示する場面

※Sはクラス全体の様子

T：クイズ大会をするときに、問題をどのように出したらよいか考えましょう。

T：先生は驚いたことを、クイズにしてみました。

T：学校にたくさんあるものです。

S：なんだろう？

T：大きさは子どもくらいの大きさです。

S：えっー！

S：なんだろう？

T：色は赤です。(観点：色)

T：ものまねすると、こんな感じの形です。

(手で大きな四角形を描き、気を付けの姿勢をした)(観点：大きさ、形)

S：なんだろう？

T：絵に描くとこんな感じです(図1)。

S1：見たことあるぞ。

S2：廊下にあったなあ。なんて言うものかな？

T：名前をなんて言うでしょう。

S3：えっ。難しいな。

T：三つの中から選んでください。一番消火器、二番防火扉、三番消火栓です。

S4：一番かな？



図1 見本を示す場面の様子

S5：三番かな？自信はないけど。
 T：まだ難しそうなので、○×で教えてください。
 これは、消火栓という。
 ○でしょうか。×でしょうか(図2)。
 S6：×だよ。
 T：決まりましたか。正解は、消火栓と言います。○です。
 S7：当たった。
 S6：消火栓ていうのか。初めて知ったよ。
 T：こんなふうに、クイズを作ったり、三つの中から選んだり、○×にしたり、ジェスチャーをしたりして問題を作ることができます。
 T：見た物を粘土で作ったりすることもできますよ。
 自分で表したい方法で、学校の秘密を教えてください。



図2 答えを考える様子

この後、児童は自分が表したい方法を決定し、学校探検で見付けたものや人についてまとめた(図3)。

どこにあったでしょう。
 ヒント 音楽室ではありません。

4年1組にあります。
 4年生から使います。
 1年1組にはありません。
 1年生には、危ないと思いました。

理科室にあるものです。
 大きさはこのくらいです。
 これは、何でしょう。

このくらいのおおきさ
 ・りがしつにある

このこうたんけん、クイズ
 これは
 なんてしょう？
 ○年組にあります。
 ○年生から使います。
 ○年組にはありません。
 ○年生には、危ないと思いました。

図3 絵や言葉で表現する様子

最後に、数名の児童に作った問題を発表してもらい、発表のしかたを確認し、次時のクイズ大会に向けて意欲を高めてまとめとした。

4 考察

- 「クイズ大会」を設定したことで、「友達が見付けないものを見つけよう」「たくさん見付けるぞ」など、意欲的に学校探検をすることができた。その結果、学校探検で見付けたものや、見て思ったこと、驚いたことなどを自信をもって絵や言葉で表現することができた。
- 表現方法を例示することで、問題の作り方や、表現方法を知ることができた。
- 絵を描いて問題作りをする児童が多かった。ジェスチャー、粘土で表現する児童はいなかった。表現方法に偏りが見られた。
- 学校探検をする際に、児童は発見したことをワークシートに絵で表現していた。クイズを作る時にも、ワークシートの絵をそのまま紙に描き写す児童が多かった。児童が学校探検をしたときに描いた絵をクイズ大会の際に実物投影機で写すなどの工夫の仕方もあったと考える。

実践2

1 単元名 「あきのおもちゃだいしゅうごう」(第1学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、秋の校庭や公園で集めた葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを作り、遊ぶ物を作る面白さや作った物を利用して遊ぶことの面白さ、自然の不思議さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことをねらいとしている。

単元のまとめに、作ったおもちゃで2年生と一緒に遊ぶ活動を設定した。たくさんの2年生にお客さんとして来てもらえるように、自分で作ったおもちゃや飾り・お店を宣伝する表現活動を取り入れた。

本時は、全15時間計画の11・12時間目にあたり、自分の作ったおもちゃや飾り、お店作りで頑張ったことや工夫したこと、思ったことや考えたことを表現することができることをねらいとしている。

製作に没頭してきた自分の活動を振り返り、いろいろな表現方法の中から好きな表現方法を選び、簡単に表現することができるようにするため、本時の研究上の手だてを次のように具体化した。

3 授業の実際

導入において、頑張って作ったおもちゃを使ってたくさんの人に遊んでもらいたい、多くのお客さんに来てほしいことを確認した。

いろいろな表現方法の見本を示す場面

※S全はクラス全体の様子

T：たくさんのお客さんに来てもらうために、おもちゃやお店のことをどんな方法で知らせますか。

S1：手紙です。

S2：新聞です。

T：他にもこんな方法があります。

ちらし・紙芝居・絵本・テレビコマーシャルなどの参考作品を提示し、表現方法を紹介する(図4)。

S全：面白そう。

S3：早く作りたい。

T：自分の好きな方法で作品を仕上げましょう。



図4 参考作品 テレビコマーシャル

このように参考作品を提示することで、児童は、いろいろな表現方法を知り、表現することへの見通しをもつことができた。

観点を示し、書き方を確認し、まとめ方を知らせる場面

※S全はクラス全体の様子

T：お客さんにたくさん来てもらえるように、自分のおもちゃやお店の楽しいところや面白いところをたくさん見つけて宣伝できるといいですね。

T：先生のおもちゃでどんなところを宣伝できますか。

秋の物を使ったところはどこですか。(観点：秋の物を使ったところ)

S1：どんぐりを使っています。

S2：黄色や赤の葉っぱです。

T：みんなで楽しく遊べるように、先生はおもちゃのどこを工夫したと思いますか。(観点：おもちゃの工夫)

S3：葉っぱで描いた絵を釣れるようにしました。

S4：赤や黄色い葉っぱで、絵がかかれています。

T：みんなで楽しく遊べるように、お店の工夫したところはどこですか。(観点：お店の工夫)

児童が作らないおもちゃ(釣りゲーム)を例示した

S5：看板を作ったところです。

S6：時間を計ることです。

S7：二回できるようにしました。

T：おもちゃや飾り、お店作りを頑張ってきて、お客さんに伝えたいと思ったことはありますか。
(観点：思ったこと・考えたこと)

S1：いいおもちゃができました。早くお客さんにきてほしいです。

S8：楽しく遊んでほしいです。

T：秋の物を使ったところ、おもちゃの工夫、お店の工夫、思ったこと・考えたこと、それぞれ書き込んだカードを台紙に貼ると、絵本やちらしの完成です。

S全：貼り付けるだけなら、簡単だな。

S全：絵本にしようかな。ちらしもいいな。

S5：楽しそうだから、テレビコマーシャルにしよう。

S全：頑張って作るぞ。

その後、児童は、自分のおもちゃや飾り・お店を見直し、観点別にカードに記入した。児童は、たくさんの思いを込めて製作してきたので、作品に対する思いを自信をもって書き込むことができた(図5)。

それから、観点別に記入したカードを、表したい方法の台紙に貼り、絵本やちらし、テレビコマーシャルなどに仕上げた。おもちゃや飾り・お店作りの経過を写真に残してあったので、写真を貼り、解説を書く児童もいた。

A子は秋の物を使ったところに「どんぐりや秋の実を使ってけん玉を作ったこと」、作ったおもちゃの工夫のところに「いろいろな形をしたけん玉があり、難しいけん玉や簡単なけん玉があって楽しいこと」、お店の工夫のところに「二回入ったら、もう一回できるルールにしたこと」、思ったこと・考えたことには「双子けん玉はすごく面白いからチャレンジしてほしいこと」を書き込み、テレビコマーシャルの裏面を仕上げた。また、テレビコマーシャルの表面には、写真を貼ったり、絵を描いたりすることができた。付箋紙を活用し「得点が付いているのと、付いていないのがあるよ」「いろんなひもがあるよ」「これは私のお気に入りのけん玉だよ。いっぱい使ってね」などと書込みもすることができた(図6)。2年生に発表するときは、これらの経験をもとに自信をもって嬉しそうに発表することができた。

4 考察

- 児童はたくさんの2年生にお客さんとして来てもらうために、今までの製作活動を振り返り、おもちゃや飾り・お店の楽しいところや工夫、製作活動を通しての自分自身の頑張りや成長などに気付き、詳しく表現することができた。
- 表現したい方法を選び、新聞や絵本が簡単にできるので、楽しみながら取り組むことができた。完成したときは達成感を得ることができ、喜びや自信につながった。
- 四つの観点をすべて書くのではなく、一つの観点だけをたくさん書いてもよかった。
- 観点を四つにしたが、同じようなことを繰り返し書いてしまう児童がいたので、「おもちゃや飾りのことについての工夫」と「お店の工夫」についての二つでもよかった。

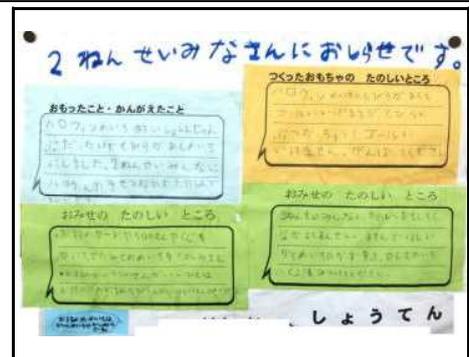


図5 ちらし



図6 テレビコマーシャル